FUKUSHIMA Q

廃炉について私たちが
知りたいこと
話し合いたいこと

デブリの取り出し

現実的にどのようなスケジュールになるのか？

チョルノービリの
石棺のようにして
そっとしておくみたいなことが
できるのか？

線量が高くて中に入れないから
確認ができないのか？

想定以上の損傷だったか
らデブリが取り出せない場所に
残ってしまったのか？

除染

土壌の除染は何のために
やらねばならなかったのか

現在人が入れるようになっている地域は
人体に影響がない線量だという
理解でいいのか

廃炉までの道筋

廃炉を進めるのはよいが、
40年で本当にできるのか？

廃炉の実現において最も重要なこと、
または障害になっていることは何か

廃炉はできないのでは？
土も結局どこにも行かないのでは？

廃炉の全体像は
誰がどのように描くのか

事故・廃炉の担当、中間貯蔵、
廃炉の賠償など担当省庁が
バラバラなのはなぜか

瓦礫とか汚染物の処分は
各都道府県が協力するのが理想
現時点で何が決まっているのか

廃炉事業、除去土壌の
管理管轄責任の所在はどこか

廃炉するのに30年～40年と言っている中、今14年経過する中で残りの16年ではどうやったって無理
できないならできないと国が示すことも必要では？

地域と廃炉

廃炉と言われても、結局できないのでは
土もどこにも行かないのでは
それよりも地域を何とかしなければ
いけないというほうが先決

東京電力に対する
敵対心ではなくて
共に考えるという考え方も
今後はすごく重要

双葉郡の経済を考えると
東京電力と切って生きられるのかと
いうところが課題
またこれを役場の職員は
どう考えているのか

説明を今後どのようにしていくか次第では
地域の方が置き去りになるのではないか

廃炉そのものは問題がない
ただ40年ほどではできるわけがない
しかしそれはそれでよい
ただ、生活は廃炉とは別

廃炉は福島の外の問題でも、
技術者だけの問題でもない
地元の問題として関わる必要がある

「原発事故」の言葉に
込められている意味合いが複雑
避難者でありながらF1で働く当事者もいて
それぞれの物語があり、そこは無視しないで欲しい

廃炉後

福島第一を
観光地化にする
構想はないのか

教育観光という意味では
将来的に活かせる方向に
持っていけたらよいように思うが
将来的にどのように
活かされていくのか

廃炉をポジティブに捉えて、
廃炉から新しいテクノロジーを
生み出し、世界に
発信できるようになるとよい

情報発信

県外の人がいかに自分事として捉えられる
情報発信ができるかが重要なのでは

ショート動画など
若い世代にあった
情報の届け方が
必要では

情報発信と風化のバランスを
どう取るべきかは難しい問題

地元の人の関心を
得られるような
情報発信を
心掛けるべき

地域のこと、水、電気、空気など
当たり前にあるものは当たり前では
ないことを知るきっかけづくりが必要

廃炉の費用を
負担しているのは
国民なので全国民へ
報告すべきでは

情報発信は対象が誰かによって内
容が変わる
本当に知ってほしい人は誰？

海外の取り組み

諸外国を参照したとき
市民と廃炉に向き合っていく集まりは
いかに模索されているか

東電はセラフィールドから
対話の方法を
学んでいると聞いたが
住民はどのように
対話の仕方を学べばいいのか

地元との対話

廃炉の対話や「ぼいすふろむふくしま」など
地域との対話があることを周りの人は知らない

かしこまった「対話の場」にただ来てでは
参加しづらい

関心がないと捉えられるかもしれないけど
事故前から原発のことは
タブーでなかなか話せないというのがある

年齢、性別、背景も様々な中で、
中長期プロジェクトの廃炉・地域づくりを
考えるための地域の合意形成を
どのように進めていくべきか

市民が社会課題や
地域政策に
かかわる際のあり方は？

対話は恣意的にでも属性を限定して
多様性を想定した場にしていくといいのでは

受け手とのかかわりが不足している
対話するなら住民の日常の場に
入っていく努力が必要では

廃炉作業に変化があまり感じられない中で
関心を持ち続けることは難しい。

コミュニケーションは本来双方向のもの
住民も学び、対話する姿勢が必要

地域との対話も必要だが
廃炉に関わる組織内の対話も必要では

次世代への継承

色々な人の思いを掘り起こして
重層的に事故を次世代へ伝えていくために
必要なものは何か、という話が必要では

現場で体験したり、地域の方から
話を聞いたりする
丁寧な学習の機会が必要
そうすると自分事と捉えやすくなり
また自分も継承していける

放射線を伝える際、物理だけではなく歴史とか社会学、
政治学まで入れたテキストがあるといい

原発は事故が起きる可能性があるなら
なくなった方が良いが、電力という面で
考える必要なのかもしれない

廃炉を教育に取り入れることで小さい時からの意識づけを
行っていかないと、成人した時に判断しにくいのではないか